

ノヲ侮蔑シ、徳義ノ何タルヲ解セザル者多シ。斯ノ如キ徒ハ唯權利ノミヲ主張シテ其半面タル義務ノ何タルヲ解セザル者ニシテ、不謹慎モ亦甚シト言ハザル可カラザルナリ。

本年(大正十年)新所得税法ノ實施セラル、ヤ富豪中脱税ノ方法ヲ講ジテ日モ是レ足ラザル者頗ル多シト云フ。所得税申告書ニ現ハレタル結果ニ就キ主税當局者ノ語ル所ナリトテ新聞報知新聞五月八日ハ左ノ記事ヲ載セタリ。

改正所得税ノ徴收方法ガ綜合課税トナツテ

第一ハ超過所得ノ名目デ運用資本ニ對シテ利益一割ヲ免税點トシ其レ以上ハ累進法デ課税スル

第二ハ留保所得ト稱シテ法定積立金トカ準備積立金乃至繰越金等ノ會社ニ留保スル分ニ課税スル

第三ハ配當所得ト稱シテ會社以外ニ放出スル重役トカ株主トカニ渡ル金ニ課税シ更ニ其レガ重役株主ノ手ニ渡ルト其各個人ニ對シテ所得税ヲ課スルノデアアル

斯クノ如ク新所得税法ハ改正前ノ所得税法ニ比シテ一層用意周到ナル徴收法ヲ講ジタノデアアルガ、自己ノ利益以外何物モナイ富豪資本家ノ手合ハ早クモ收税吏モ手出シノ出來ナイ合法的手段デ脱税ヲ畫策シテイル、其手段ハ

第一ノ超過所得ノ免税點ニ入ランガ爲メニ資本額ヲ二倍ニモ三倍ニモ増加シテ居ル

第二ノ留保所得ヲ脱レンガ爲メニ積立金繰越金ニ廻ス金ヲ削ツテ會社ノ用地ト云フ名目デ不動産ニ投資スルトカ不必要ナ什器機械類ヲ購入シタ體ニ見セル

第三ノ配當所得ノ脱稅方法トシテ昨年九月以來同族會社若クハ保全會社ト稱スル名稱ノ下ニ自己所有ノ株券等ヲ一家族デ組織シタ株式會社ニ直シテ居ル

脱稅ノ目的デ個人經營ヲ法人ニ直ス様ナ流行ハ一流ノ紳士紳商ヲ以テ世ノ尊敬ヲ受ケテ居ル人達ガ競ツテ其方法ヲ講ジテ居ル、其數目下我々ノ目ニ止マツテ居ル分ダケデモ二百以上ニ達シテイル、此儘デ彼等ノ申告通りヲ受ケ入レタラ折角ノ公平ヲ期スル爲メノ改正稅法モ却ツテ彼等ノ奸手段ヲ增長サセタニ過ギナイ結果ニ終リ、剩サヘ、富豪階級ノ惡德ヲ看過シテ、中産階級ニ苛斂誅求スルコトトナリ、社會ニ甚大ナル影響ヲ及ボシ、左ナキダニ思想ノ惡化ヲ虞レツ、アル折柄、由々シキ結果ヲ招徠スル事ナキカラ憂慮スルモノデアアル云々。

聞ク所ニ依レバ、家族一同温泉行ノ費用及家庭ニ於ケル下女ノ費用迄モ同族會社ノ費用トナスモノアレバ、又一層甚ダシキニ至ツテハ、公益事業團體若クハ慈善事業團體ノ美名ノ下ニ資産ヲ蓄積シ、家族ハ團體ノ費用ヲ以テ生計ヲ營ミ、自己ノ事業ガ如何ナル失敗ヲナスモ、團體資産ハ民法ノ保護ヲ受クベキ全然別個ノモノナレバトテ何等ノ責任ヲ負ハズ、斯クシテ獨リ脱稅ヲ圖ルノミナラズ其資産ヲ純然タル世襲財産トシテ形成スル者アリト云フ。其奸手段ハ實ニ驚クノ外ナキナリ。

又上流者、富豪ノ中ニハ、宅地ヲ山森、原野、若クハ由畑ナリト稱シテ以テ脱稅ヲ圖リ、恬トシテ少シモ自ラ恥ヂザルモノアリ、稅務監督局ガ實地踏査シタル所ニ依レバ、本年(大正十年一月一日)現在ニテ東京市內私有地ニ總計三十五萬二千八百坪ノ山森、原野、田畑、池沼

アル由ナルガ是等何レモ宅地ノ延長ニシテ當然宅地タルベキモノナルニ拘ラズ、更ニ地目ノ變換ヲ行ハズ、甚ダシキハ稅務當局者ト論争シテ迄モ依然宅地トシテノ届出ヲ拒ムガ如キ陋劣ナル心事ノ者アリト云フ。

ナルアリ。其意味ハ廣汎ニシテ一事ヲ成シ遂グルモノナリ、一物ヲ發見スルモ亦ナルベキモ、併シ一般ニト稱セラル、ハ、巨萬ノ資産ヲ蓄積シタル者ヲ指稱スルガ如シ。富ヲ蓄積スルハ誠ニ容易ノ業ニ非ザルナリ。富ハ勤勞努力ノ結果ニ外ナラザレ共、勤勞努力シタル者必ズシモ富ノ蓄積者ニ非ザルヲ見レバ富ヲ得ルハ一種特別ノ要スベキガ如シ。即チ是レ一種ノナリ。世人ハ富ノニ對シテ或敬意ヲ表ス又表スベキガ當然ナリ。何トナレバ現今ノ經濟組織ニ於テハ大

資本ナケレバ大事業ヲ起スヲ能ハズ、大事業ヲ起サレバ國家ヲ隆盛ニシ國利民福ヲ期スルヲ能ハズ、而モ大資本ハ資本家ニ俟タザル可カラザルヲ以テナリ。換言スレバ富ハ其蓄積ニヨリ以テ公益事業ヲ發達セシムルト共ニ、多額ノ國費ヲ供給スルヲ得レバナリ。是レ即チ富ノ使命ニシテ、富ノ成功者カ尊敬ヲ受クル所以ナリ。去レバ前述ノ如ク、富及地位ヲ只自己ノ享樂ノ爲ニノミ專用スル者、若クハ奸手段ヲ以テ利己ノ利益ノ爲メニ脫稅ヲ圖ル者ノ如キハ、全ク富ノ意義ヲ沒却シ其眞使命ヲ理解セザル者ナリ。元來法律ハ社會生活ニ於ケル制裁ノ極度ヲ規定シタルモノニシテ、罰則ハ其制裁ノ範圍ヲ越ヘタル者即チ社會ヲ害毒スル者ヲ取締ルベキ規定ナリ。去レバ圓滿ナル社會ニ於テハ、德義、公德ハ最も重要ナル要素ニシテ、法律ノ規定ニ觸ル、ガ如キハ紳士トシテ

ハ勿論人トシテ大ニ愧ヅベキコトナリ、然ルニ脱税ヲ計畫スル者ノ如キハ、唯ニ法律ニ觸レザレバ可ナリ、罰則ニ問ハレザレバ差支ナシトテ、法ノ意味ハ知テ知ラザル風ヲナシ、或ハ法律ノ缺點ヲ指摘シテ、脱税セザル者ヲ却ツテ愚直ナリトナスモノニシテ、其心事ノ陋劣ナル、其行爲ノ醜汚ナル、公德心ノ缺乏セル、誠ニ慨歎ノ外ナキナリ、而モ其レ等ノ徒ガ上流者ト稱シ富豪ト稱シ資本家ト稱シテ、恬トシテ自ラ恥ヂザルニ至ツテハ、日夜生活ノ脅威ヲ受ケテ不安ヲ感ジツ、アル無資産若クハ勞働者階級ガ不平ノ怨聲ヲ發シ、若クハ世ヲ呪フニ至ルコトハ、強チ無理トハ言フ可カラザルナリ。近來勞働問題ニ關スル記事中ニ應々勞働問題煽動者若クハ煽動渡世者ナル語アリ。彼等ガ若シ勞働問題ニ依リテ社會ヲ害毒スルモノナリトスレバ、是レ正ニ刀劍ヲ振翳シテ正面ヨリ脅迫

シ來ル者ニシテ此等ハ警察力若クハ軍隊ヲ以テ之ヲ鎮撫スルコト必ズシモ難事ナラザルベキモ、脱税富豪ノ如キハ、例ヘバ飲食物ニ投ジタル毒藥ノ如ク、知ラズ識ラズノ中ニ内臟ヲ破壊シ、社會ノ健全性ヲ根抵ヨリ腐蝕スルモノニシテ、共同生活ノ上ニ於テ最モ恐ルベキ害惡ナリ。余ハ此等上流者、富豪特ニ稅務監督局ノ所謂黑表中ノ人々ニ對シ、此際須ク自己ノ爲メ社會ノ爲メニ自覺改悛シテ、紳士トシテノ本分ヲ全フセラレン事ヲ希望シテ止マザルナリ。若シ斯ル陋劣ナル心事ヲ承認シテ其儘ニ放任シ置カンカ、如何ナル緩和劑ヲ以テ思想ノ激變ヲ調和セントスルモ、ソハ單ニ枝葉ノ形ヲ整フルニ止マリテ、其根幹ノ腐蝕ハ到底之ヲ防止スルコト能ハザルニ至ラン、而シテ其結果ハ何程最負目ニ見テモ、勞働問題ノ將來ハ英國ノ跡ヲ追フノ外ナカルベク、ソレガ萬一惡化シ危

險化スルニ至ランカ、所謂社會主義者ノ理想ノ一部ガ實現セラ  
 ルニ至ルヤモ未ダ知ル可カラザルナリ。然ルトキハ上流者、富豪  
 等ノ不謹慎者ハ、當然其責ヲ負ハザル可カラザルト共ニ、自滅ノ外  
 ナキニ至ラン。返スガヘスモ、速ニ自ラ反省シテ、紳士ノ本分ヲ全  
 フセラレンコト誠ニ切望ニ堪ヘザルナリ。  
 近ニ社會局若クハ社會課ナルモノガ、中央及地方ニ設置セラル、  
 ト共ニ協調會、慈善團體、自慶會、道ノ會等種々ノ名目ノ下ニ所謂社  
 會政策ヲ講ズルノ團體各處ニ現ハレタリ。而シテ其爲ス所ヲ見  
 レバ、主トシテ生活ノ安定ト思想ノ穩健トヲ期スルニ在ルモノ、  
 如シ。去レドソレ等ハ何レモ労働者階級及無産者ヲ善導セント  
 スルニシテ、未ダ上流社會、富豪、智識階級等ヲ善導セントスルノ機  
 關ヲ見ザルナリ。否其計畫スラアルヲ聞カザルナリ。然ルニ前

述ノ如キ不謹慎者ノ外、滿鐵瀆職問題、東京府市贈收賄問題、税關、郵  
 便ノ疑獄問題等不祥事件ノ頻發ハ殆ンド枚擧ニ遑アラザルナリ。  
 此等ノ醜類ヲ見ルニ、何レモ労働者ニモ非ズ又無資産者ト見做ス  
 ベキ者ニモ非ザレバ、彼等ヲ善導シ教化セバ、労働者ニ比シテ效果  
 ノ大ナルベキコトハ言ヲ俟タザルナリ。其一人ヲ善導スレバ其  
 效果ハ労働者ノ十人ニ比敵スルモノモアルベク若クハ百人、千人、  
 時トシテハ數千人ニ比敵スル者アルヤモ知ル可カラザルナリ。  
 ソレニモ拘ラズ、彼等ハ何事モ承知ノ上ニテ爲スコトナレバ致方  
 ナシトノ一言ノ下ニ之ヲ放置シテ顧ミザル有様ナリ。併シ乍ラ  
 彼等ハ元來教育アリ智識アリ地位アリテ、唯本生ノ本心ガ一時暗  
 雲ハ蔽ハレタルマデノコトナレバ、高潔達識以テ一世ヲ指導スベ  
 キノ國土ハ、宜シク斯ル徒ノ教化ノタメニ高等教化團若クハ國民

教化協會トモ稱スベキ團體ヲ組織シテ、屈セズ撓マズ、其ノ善導ニ盡力セラレンコトヲ希望シテ已マザルナリ。

#### 四、勞働者ノ自覺

勞働橫暴 勞働者ノ覺悟 團體的努力

個人的努力 勞働時間 勞働組合

勞働者ノ多數ハ比較的教育少ク其言語行動ガ兎角野卑粗暴ナルコトハ、各國共ニ然リ。教育少ク思慮淺キガ故ニ、應々利害得失ヲ辨別セズシテ指導者ノ行動ニ盲從シ、或ハ熟考セズシテ目前ノ感情ニ馳セ、或ハ附和雷同シテ常軌ヲ逸シ、知ラズ識ラズノ中ニ暴行ヲ敢テスルコトアルヲ免レザルナリ。我國ノ産業ハ、歐米先進國ニ比スレバ未ダ微々タルモノナルヲ以テ勞働者ガ工場ニ於テ多

數ノ集團ヲ組織シタルハ近年ノ一ニシテ、其取扱ニ就テハ、勞働者自身モ、社會モ、國家モ未ダ其圓滿ナル方法ヲ見出サザルナリ。從テ一般勞働者ノ中ニハ、何等組織的ノ訓練ナク、又行動ノ經驗ナクシテ、單ニ歐洲大戰後、大潮ノ如ク殺到シ來レル所謂新思想ナル者ヲ直ニ直譯シ鵜呑ニシテ、以テ世界ノ大勢ニ順應スルナリトテ之ヲ得意トシ又雷同スベク他ヲ煽動スル者アリ。其事ノ是非善惡ハ各自ノ考ニ任セ、如何ニ之ヲ判斷スルモ各自ノ勝手ナルモ兎ニ角勞働者ハ勞働者トシテ自發的、自主的ノ考ヲ有シ之ニ基キテ行動セザルベカラザルナリ。即チ自己ノ地位ト利害トニ對シ十分ノ自覺ヲ有セザル可カラザルナリ。尤モ舊來ノ徒弟制度ノ下ニ所謂親方ニ養成セラレタル徒弟上リノ勞働者ニ對シテ、世界ノ大勢ニ鑑ミ産業ノ大局ニ察シタル自發的ノ行動ヲ要求スルコトハ、或

ハ少シク無理ナル注文ナルヤモ計リ難シト雖、歐米日新ノ産業ヲ移植シタル大工場ニハ、今ヤ勞働者トシテノ普通教育ヲ有スル者若クハ中等程度ノ産業教育ヲ受ケタル者モ亦少ナカザルナリ。然レ共ソレ等トテモ歐米ノ如ク未ダ勞働階級ナル確然タル階級アルニアラズ又勞働運動ニモ經驗ナキ者ノミナレバ、机上ニ於テ思想ノ研究ヲ能事トスル學者ノ直譯、徒ニ矯激ノ文字ヲ喜ブ社會主義者、據テ以テ衣食ノ資トスル口ト筆ノ自稱勞働指導者若クハ何等事業ニ關係ヲ有セザル勞働煽動者等ノ言動ニ兎角ニ附和雷同シ易キ傾向アルヲ以テ、能ク自己ノ地位ト其利害トヲ熟慮シテ、萬事ニ自發的ノ行動ヲナスヤウ深ク自覺スル所ナカルベカラザルナリ。

一、勞働ノ横暴 英國石炭坑夫大同盟罷業ハ、前章ニモ記述シタル

如ク、炭價暴落シテ炭坑ノ經營ガ困難トナルニモ拘ラズ賃銀ノ値上ゲヲ要求シ、又炭坑ノ經營ガ成立セザレバ、政府ヨリ補助シテモ賃銀ノ値上ゲヲナスベキコトヲ強要シ、而モ政府ガ之ヲ承認セザリシガ爲メ、罷業ヲ斷行シタルナリ。斯ノ如キハ時機ヲ察セズ又國家ノ利害ヲ顧ミザル唯自己ノ利益一片ノ觀念ヨリ發作シタルモノト言ハザル可カラザルナリ。果シテ然リトスレバ、是レ勞働者ノ横暴ニ非ズシテ何ゾヤ。又或人ノ言フガ如ク之ヲ以テ炭坑國有ナル政治上ノ觀念ヨリ發作シタルモノトスレバ、是レ明ニ少數者ノ意見ヲ無理ニ實行シテ國家ニ損害ヲ及ボシ社會ノ生活ヲ脅威シタルモノニシテ、炭坑勞働者ノ專制ナリト言ハザルベカラズ。要スルニ何レニシテ勞働者ノ横暴ナルコトハ争フベカラザルナリ。又伊太利ニ於テ、勞働者ガ赤旗ヲ翻シ金屬工場ヲ占領シ

テ、之ヲ經營セント企テタルガ如キハ、全ク國法ヲ無視セルモノニシテ均シク労働者ノ横暴ナリ。又露國ノ現状ハ政治上ノ主義ノ争ナリト稱セラル、モ其實際ハ無智ナル労働者ガ放恣横暴ノ舉ニ出デタル結果ニシテ、殺戮若クハ饑餓ノ爲メ、住民ハ其數三分ノ二若クハ二分ノ一ニ減ズベシ等ト想像セラル、程ノ慘狀ヲ呈スルニ至レルガ、是レ畢竟労働者ノ横暴ニ歸着スルナリ。我國ノ労働問題ハ、發生以來日猶淺キヲ以テ、斯ル横暴ノ事實ナキコト、國家ノ幸福ナレ共、或電車ノ労働組合ガ我等ハ市民ヲ敵トシテ戦ハザル可カラズト宣言シタルガ如キ又或組合ガ智識労働者ヲ排除シテ専ラ筋肉労働者ノミニテ問題ハ解決スベシト唱導シタル者キハ、労働者横暴ノ萌芽トモ目スベキ言動ナレバ、識者ハ此點ニ關スル考慮ヲ怠ルベカラザルナリ。

二、労働者ノ覺悟 國家ノ隆盛ハ國民ノ元氣ヨリ來リ、國民ノ元氣ハ多數労働者階級ノ元氣ト其健全ナル發達トナラザル可カラズ、即チ各自ガ其地位ヲ自覺シ、其職分ヲ盡シ、自主獨立ノ人トシテ自己ノ運命ヲ開拓シ、其向上發展ヲ圖ルニ至レバ、是レ即チ健全ナル發達ナリ。而シテ斯クノ如クナランニハ、今日ノ状態ニ於テハ、労働者トシテ二様ノ努力ヲナサザル可カラズ、即チ、團體的努力、個人的努力是レナリ。

三、團體的努力 團體的努力トハ同志者若クハ同階級者ガ相倚リ相助ケテ團體ヲ造ク、共同ノ位置ト利益トヲ向上増進セントスル活動ニシテ、是レ社會ノ何レノ方面ニモ必要ナルモノナリ。労働階級者ガ組合ヲ作リテ團體的活動ヲナスハ是レ即チ労働運動ニシテ我國ニ於テモ着々ト槩頭シツ、アルモノナリ。而シテ此團



體運動ガ假ニ労働者ノ自覺ト向上ノ精神トニ基キタルモノナリトスレバ、労働者ノ健全ナル發達ヲ促シ、労働者全部ノ幸福ヲ増進スルト共ニ、産業ノ發達ニモ貢獻スルモノナルヲ以テ、吾人トテモ此種ノ運動ニ對シ大ニ努力スル所ナルベカラズ。去リ乍ラ此種ノ運動ハ元來階級全體ノ共通利益ヲ目的トスベキモノニシテ、其成功ハ即チ労働者全部ノ地位ノ向上タラザルベカラズ。換言スレバ労働者モ資本家モ等シク人格者ナリ、労働者ナリトテ獨リ社會ノ地平線下ニ居ルベキニ非ズシテ、人トシテ自己ノ能力ニ應ジタル地位モ得又文化生活モナシ、畢竟世ノ中ニ立ツ機會ニ於テ均等ノ地位ヲ得ントスル機會均等運動ニ外ナラザルナリ。露骨ニ言ヘバ農工商ハ如何ナル能力アルモ士タルコト能ハズ、又兵卒ハ如何ナル能力アルモ將校タルコト能ハズ、ト云フ如キハ、是レ機

會均等トハ稱スベカラザルナリ。又物質ニ就イテノミ言ヘバ労働者ノ能力ガ大部分ノ因トナリテ得タル産業利益ヲ、労働者ニハ與ヘズシテ他ニテ奪取スルガ如キハ、決シテ機會均等トハ稱スベカラザルナリ。若シ此ノ如キコトアリトスレバ、是レ明ニ機會均等ノ主義ニ反シタルモノナレバ、團體的努力ヲ以テ、其不都合ヲ指摘シ以テ共通ノ利益ヲ謀ルコトニ努力セザルベカラザルナリ。斯ル運動ニ努力シ又成功スレバ、社會ハ全般ニ進歩シ、世人ノ幸福ハ全般ニ亘リテ増進スルナリ。是レ即チ能力ニ應ジタル平等ニシテ舊制度ト異ナル所以ナリ。

四、個人的努力 個人ノ立身出世ハ、團體的努力ニ俟ツベキニ非ズシテ個人ノ努力ニ據ルノ外致方ナキナリ。凡ソ人生レ乍ラニシテ將相タル者ナク、又生レ乍ラニシテ僕婢タル者ナシ。之ト同シ

ク富者皆必ズシモ生レナガラニシテ富者ニ非ズ、貧者皆必ズシモ生レナガラニシテ貧者ニ非ザルナリ。事實日本ニ於ケル又世界ニ於ケル多數ノ富豪若クハ企業家ノ經歷ヲ調べ見レバ、元ハ貧乏人ヨリ出世シタルモノ多シ。獨リ富豪、企業家ノミナラズ、如何ナル方面ニ於テモ、成功者ト呼バル、者ハ、皆個人的努力ニ依リテ自己ノ智徳ヲ練磨シ、能力ヲ涵養シ努力奮闘以テ自ラ自己ノ運命ヲ開拓シタルモノナリ。特ニ其内容ヲ精査スレバ、富ノ成功者ノ如キ、其大部分ハ勤勞ト流汗トノ賜ニシテ、理屈ノ巧拙ノ如キハ其一小部分ニ過ギザルナルベシ。學問ノ進歩シタル今日ニ於テハ、高等ノ教育ヲ受ケタル者ハ、一見成功者ノ如クニモ見ユベシ。成程高等教育ヲ受ケ得ル運命ヲ得シコトハ一種ノ成功ニ相違ナカルベシ。然レ共教育ヲ受ケタルコト其レ自身ハ成功ニ非ズシテ、學

ビタル科學ヲ應用シテ初メテ成功ノ端緒ヲ得ルノミ、嘗テ米圃實業界ニ於テ、實地ノ經驗ヲ貴ブノ結果、大學出身ノ實業家今幾干アリヤ、トテ暗ニ學校出身者ノ役ニ立タザルヲ諷シタルコトアリシガ、是レ頂門ノ一針タルベシ。高等ノ科學ヲ修得スルコトハ固ヨリ可ナリ、然レ共之ヲ修得シタリトテ満足スベキニ非ズ、満足スレバ其レ迄ナリ。又家貧ニシテ教育ヲ受クルコト能ハズトテ失望シ、若クハ自暴自棄スベキニ非ザルナリ。社會ハ言ハ、廣大無邊ノ一個ノ大學ナルヲ以テ、奮闘努力スレバ向上發展ハ自ラ庶幾シ得ベキナリ。

勞働爭議ニヨリ、團體的努力ヲ以テ勞働者側ノ要求條件ヲ全部贏チ得、尙今日以上ノ最低賃銀制ヲ贏チ得タリトスルモ、是レ要スルニ勞働者階級全般ノ均等ノ向上ニ外ナラズ。若シ個人的努力ガ

之ニ伴ハザレバ最低賃銀ニヨルノ最低生活ヲナスノ外ナクシテ畢竟最下級ノ民トシテノ生涯ヲ終ルコト、ナルベシ。勞働者階級中ニモ一般勞働者アリ、熟練勞働者アリ、組長アリ、掛長アリ、部長アリ、又職工アリ、職長アリ、技手アリ、技師アリテ幾多ノ職分ト幾多ノ階級トニ分タレ居ルナリ。一ノ産業ヲ組織スルニハ、斯カル職分、階級ハ必要缺ク可カラザルモノニシテ而モ職分、階級ノ異ナルニ從テ異ナレル能力ヲ要シ、從ツテ報酬ニ差異ヲ生ズルハ、自然ニシテ又事實ナリ。故ニ個人的努力ヲ以テ自己ノ職業ニ對スル責任ヲ人一倍ニ盡セバ、漸次個人的ニ向上發展シテ階級ノ變換ヲナシ、昨年ノ職工ハ今年ノ技師トナリ、遂ニハ産業ノ主腦者タルニ至ルコトモ必ズシモ難事ニ非ザルベシ。勞働者タルモノハ團體的努力ヲナスト共ニ個人的努力ヲナシテ、順次階級ヲ轉換シテ止マ

ザルノ大志ヲ抱カザル可カラザルナリ。

五、勞働時間 勞働時間ニ就テハ一週五十六時間半ト云ヒ、四十八時間ト云ヒ、若クハ四十二時間ト云ヒ又ハ一日十二時間ト云ヒ、九時間半ト云ヒ、八時間ト云ヒ若クハ六時間ト云フ。活動ヲ厭ヒ勞働ヲ嫌フ一種ノ變態思想ヨリ見レバ、勞働時間ハ可及的少キニ如クハナシ。然レ共勞働ハ疲勞ヲ惹起シ、疲勞ハ休養ニヨツテ恢復スルモノトセバ、疲勞ヲ惹起スル勞働ト疲勞ヲ恢復スル休養トハ兩々相關聯シタル比較對象的ノモノタラザル可カラズシテ、此兩者ノ關係ト程度トヲ明確ニスルニ非ザレバ、勞働時間ノ多少ハ之ヲ決定スルコト能ハザルナリ。由來我國ノ風俗習慣ハ、遺憾ナガラ勤勞ニ對スル時間ノ觀念ヲ缺如シ、勤勞時間中ニモ疲勞ヲ醫スベキ休養ニ似タル時間ヲ含ミ休養時間中ニモ疲勞ヲ惹起スル勤

勞ニ類シタル時間ヲ混ズル場合少ナカラズ。從テ勞働時間問題ハ必ズシモ之ヲ英米國ト同様ニハ律ス可カラザルナリ。勤勞ヲ若トシ休養ヲ樂トスル人類普通ノ心理ヨリ見レバ、働カザレバ食ヘザルガ故ニ食ハンガ爲ニ働クナリトノ意味ヲ以テ可及的苦ナル勞働ヲ減ジテ樂ナル休養ヲ増サントシ、食フニ足ルベキダケノ時間ヲ勞働セバ他ノ時間ハ休養セントスルガ當然ナリ。抑モ勞働能率ト勞働時間トハ兩々相關聯シタルモノニシテ、勞働時間ノ長短ハ實ハ勞働能率ノ多少ニ依テ定マルベキナリ。即チ能率多ケレバ時間ハ少クトモ可ナリ能率少ナケレバ時間ハ多カラザル可カラザルナリ。我國ノ大規模産業ハ發生以來日尙淺ク、該産業ニ從事スル勞働者階級ノ有無スラ疑問ナリ。即チ紡績女工ハ忽チ煙草卷女工トナリ、桑採手傳トナリ又鑛夫ハ忽チ農夫ト

ナリ、忽チ鐵工手傳トナルノ例多ク、所謂熟練工ナルモノハ甚ダ少ク、從ツテ勞働能率モ亦自ラ貧弱ナルヲ免レズ。是レ勞働時間ヲ英米國ト同様ニ律ス可カラザル所以ナリ。

又勞働時間ハ、天惠ノ原料產出ト製品市場トニ依テ考慮セラレザル可カラザルナリ。例ヘバ機械類ヲ支那市場ニ供給スル場合ニ、英米二國ハ我國ニ比シ鐵鑛、石炭ノ天惠豊富ナルヲ以テ、假ニ勞働時間ニ對スル習慣及勞働能率ガ兩者相等シトスルモ同等ナル效果ヲ舉ゲンガ爲メニハ、我國ニテハ原料ニ對スルノ天惠ノ貧弱ナルヲ價ヒ得ル丈ケ、多ク働カザルベカラザルナリ。故ヲ以テ斯カル性質ノ事業ニ於ケル勞働時間ハ、必ズシモ英米ト同様ニハ律ス可カラザルナリ。又勞働時間ノ長短ハ身體ノ健康ト密接ノ關係ヲ有スルコトハ勿論ナレ共、身體ノ健康ハ精神ノ活動ト相俟ツコ

ト亦少ナカラザルナリ。抑モ人ハ日ニ幾時間勤務シ得ベキヤ、幾  
 間勤務スルガ適度ナリヤ、醫家ニハ種々ノ説アレ共、末ダ徹底シ  
 タル斷案アルコトヲ聞カザルナリ。身心ハ微妙ノ働キヲ有スル  
 モノナレバ之レニ對シテ決定的ノ斷案ヲ得ルコトハ或ハ困難ナ  
 ルベシト思ハル。要スルニ労働時間ハ産業ノ性質、國民ノ風俗習  
 慣、労働ノ能率、労働者身心ノ状態、原料製品ノ關係及經濟上ノ問題  
 勤勞者ノ年齢地位等總ユル方面ヲ考慮シテ、其長短ヲ定ムベキモ  
 ノニシテ、輕々敷單ニ英米ノ風潮ヲ轉吞ニシテ定ムベキモノニハ  
 非ザルナリ。

六労働組合 労働組合ニ就テハ或ハ縦斷組合ト云ヒ、横斷組合ト  
 云ヒ、内務省案ト云ヒ、農商務省案ト云ヒ、其他ニモ労働法、工場委員  
 制度等種々雜多ノ題目アリテ各題目ニ對スル議論ハ諸方面ヨリ

研究セラレツ、アルモ、而モ未ダ何等歸着點ヲ得ザルモノ、如シ、  
 元來利害ヲ等シクスル者ガ相集リテ組合ヲ組織シ、相倚リ相扶ケ  
 テ其利益ヲ保護スルコトハ是レ當然ノコトナリ。從ツテ産業ノ  
 要素タル資本モ種々ノ形式ニ依リテ大資本團ヲ組織シ、之ヲ利用  
 シ之ヲ活用シテ其勢力ヲ發揮スルノミナラズ、時トシテハ暴威ヲ  
 逞クスルコトスラアリ。又事業ノ種類ト性質上利害ヲ等シクス  
 ル事業ガ相集リテ各地方ニ同業組合ヲ組織シ、此等ヲ連絡シテ聯  
 合組合ヲ造リ、以テ其利益ヲ保護スルノミナラズ、時トシテハ組合  
 ノ協定ヲ悪用シ、暴利ヲ逞クスルコトアリ。火災保險協會ノ協定  
 保險率ノ如キ又製糖業者ノ糖價協定ニ依リテ我國民ハ支那ニ比  
 シ幾倍ト云フ如キ甚シキ高價ノ砂糖ヲ用ヒツ、アル如キハ其一  
 例ナリ。又相聯合シテ生産ヲ制限シ、作業ヲ短縮シ、以テ製品ノ市

價ヲ維持スル組合アリ。又製品ノ需要ナキカ若クハ市價低落シテ生産ヲ繼續スル能ハザル場合ニハ止ムヲ得ザルモ然ラザル限リ莫大ノ利益ヲ得テ高率ノ配當ヲナシ、而モ尙且ツ制限、短縮ヲナシ、價格ヲ協定シテ世界的ニ下落スベキ運命ニ在ル物價ヲ唯利己ノ爲ニ下落セシメズシテ以テ國民生活ヲ脅威スル素因ヲナスガ如キ組合アリ。又制限、短縮ノタメニ生産費嵩ミ輸出ヲ阻害シテ、支那ニ於ケル同業ノ發達ヲ促進シタル例モアリ。此等ハ何レモ組合ヲ悪用シタル著シキ例ニシテ、組合ノ横暴ト言ハザル可カラズ。去レドスノ如キノ悪用横暴ハ即チ組合ノ運用ヲ誤レルモノニシテ、之レヲ以テ組合ナル根本組織ヲ全部抹殺シ去ルベキニ非ザルナリ。

利害ヲ等シクスル労働者ガ、相倚リ相扶ケテ組合ヲ組織シ、其利益ヲ保護スルハ當然ノコトニシテ、縦斷タルト横斷タルトヲ問ハズ、組合ヲ認メル認メヌ等ハ殆ンド議論ノ價值ナキナリ。必要アレバ認メザルモ起リ、必要ナケレバ認ムルモ起ラザル可シ。要ハ必要ノ程度如何ニ存スルノミ。然レ共組合ヲ組織スルニ當リ注意ヲ要スベキコトハ組合ノ精神ナリ。即チ労働組合ノ精神ハ労働問題ノ精神タラザル可カラズ、労働問題ヲ解決スルノ管鑰タラザルベカラズ。換言スレバ國民思想ノ穩健ナル發達ト労働者ノ生活ノ安定竝ニ向上ノ問題ヲ解決スルノ精神ナラザルベカラザルナリ。此精神ヨリ發露シタル組合ナレバ

- 一、多數國民ノ幸福ヲ阻害セザルコト
- 二、大和民族ノ一員タルノ思想ヲ堅實ニシ然ル後世界市民ノ一員タルベク考フルコト

三、經濟的基礎ノ上ニ生活ノ安定竝ニ向上ヲ期スルコト  
 右ノ如キ精神ヲ以テスル組合ハ之レヲ非認スベキモノニ非ザル  
 ベク、又排斥スベキモノニモ非ザルベシ。  
 或論者ハ労働組合ヲ以テ闘争的職分ヲ有セルモノナリトナシ、闘  
 争的職分ヲ有セル組合ヲ組織スルノ外、他ニ問題解決ノ方策ナシ  
 トナスモノ、如シ。此種ノ議論ハ單ニ喧嘩センガ爲ニ組合ヲ造  
 リ、喧嘩ヲ繼續セザレバ解決不可能ナリトシ、從ツテ喧嘩ニ次グニ  
 喧嘩ヲ以テセントシ、英國ノ労働組合ヲ以テ理想トナシテ、徒ニ其  
 經過ヲ學ビ其糟粕ヲ嘗メテ以テ時代ニ順應スト絶叫スルモノニ  
 シテ、余ノ賛成スル能ハザル所ナリ。斯カル精神ニ基キテ成立シ  
 タル労働組合ハ寧ろ無キニ如カザルナリ。

## 第六章 利益分配、産業調査會

### 一、資本利息

産業ニ投ジタル資本ヨリ收得スル利益金高即チ利息ト利益分配  
 金トヲ合シタル金高ハ必ズ公債利率ヨリ多カラザル可カラズ。  
 何トナレバ産業ニハ盛衰アリ又相場ノ變動其他ノ危険ヲ伴フモ  
 ノナレバ或ハ公債利率丈ケノ收得スラナキノミナラズ時トシテ  
 ハ元金ヲモ損失スル場合少シトセザレバナリ。故ニ産業ノ總益  
 金ヨリ先ヅ利息ヲ支拂ハザル可カラザルナリ。而シテ公債利率  
 ヲ五分トスレバ、利息ノ率ハ事業ノ性質ノ危険程度ニ應ジ之ヲ數  
 等ニ分類シ、四分乃至七分位トシテ可ナランカ例セバ

- 第一類 銀行、鐵道、電車、發電業等
- 第二類 船舶、諸製造工業等
- 第三類 鑛業、製鐵業
- 第四類 漁業

利率 四分  
同 五分  
同 六分  
同 七分

前記第二第三第四ノ資本ニ對スル收得金ノ積算額ガ五分ノ利息ヲ積算シテ元金ヲ消却シタル時ハ、第一類ノ如ク利率ヲ四分トス。試ニ其概算ヲ示サンニ、或漁業ニテ初年ニ七分ノ利息ト四割八分ノ利益分配ヲ收得シ、次年ニ又七分ノ利息ト四割八分ノ利益分配ヲ收得シタリト假定セバ、是レ即チ二年間ニテ元金ヲ消却シ終リタルナリ、斯カル場合ニハ、三年目ヨリ其漁業事業ノ利率ハ第一類ト等シク四分トセバ可ナランカ。

### 二、積立金

産業ノ性質ニ依リ、總益金中ヨリ法定積立金及固定資本減損消却積立金ヲ控除シテ尙利益多キ場合ハ、非常準備、配當準備金ヲ相當ノ程度ニ積立テザル可カラズ。尙事業ノ性質ニ應ジテ改良研究資金ヲ積立ツルヲ可トス。

### 三、純益分配法

總益金ヨリ利息、積立金ヲ控除シタル殘餘ハ、即チ産業ノ純益金ニシテ、此ノ純益金コソ産業成立ノ各要素ニ分配サル可キモノナリ。試ニ其分配科目ヲ假定スレバ、一、資本、二、經營者、三、労働者、四、國家、五、社會幸福増進資金是レナリ。而シテ要素ガ産業ノ利益ニ及ボス



價值ノ程度ハ産業ノ性質ニヨリテ一様ナラズ。或ハ資本ヲ主トスルアリ或ハ經營者ヲ主トスルアリ或ハ労働者ヲ主トスルアリ或ハ國家ノ保護ガ重キヲナスアリ或ハ社會自然ノ状態ニヨリテ始メテ成立スルモノアリ。茲ニ經營者ト云ヒ又労働者ト云フモ現今ノ組織ニ於テハ、筋肉労働アリ、智識労働アリ、高等官、判任官、重役、従業員、雇、職工等種々ノ名目アリテ混然トシテ分界シ難キ觀アレ共要スルニ事業ノ一部一課ヲ指揮、統率スル者ハ之レヲ經營者トシ、其ノ命ニ依リテ一小部分ノ作業若クハ事務ヲ處理スル者ハ之ヲ労働者トシテ區別スルコト最モ穩當ナルベシ。即チ官營産業ニ在リテハ、高等官以上ノ職員ヲ經營者トシ、判任官以下ノ従業員ヲ労働者トシ、又民營産業ニ在リテハ、一般ニ主事、技師等ト稱セラル、部長、課長等ヨリ以上ノ職員ヲ經營者トシ、書記、技手等ト稱

セラル、者ヨリ以下ノ従業員ヲ労働者トシテ二者ヲ區別スルコト最モ穩當ナルベシ。勿論經營者ト云ヒ又労働者ト云フモ、職分異ナルニ依リテ一般的名稱ニ區別ヲ來シタルマデニシテ、其間事業ニ對スル責任ノ輕重コソアレ、各自其職責ヲ重ゼザル可カラザルト、利害ヲ共ニセザル可カラザルトノ點ニ至ツテハ、何等ノ差異ヲ認ム可キニ非ザルナリ。

多ク働ク者ガ多ク生産シ多ク生産スル者ガ多クノ報酬ヲ得ルハ當然ナル如ク、産業ヲ組織スル要素モ、大ナル價值アルモノガ、純益ノ多クノ分配ヲ受クルコトハ當然ナリ。然レ共産業ハ其種類複雑ニシテ各要素ノ價值ヲ判然決定スルコト困難ナルノミナラズ、同一ノ産業ニ於イテモ、時ト處トニ依リテ幾分其價值ヲ異ニスルヲ免レズ。去リ乍ラ其性質ニ從ヒテ一通リノ分類ヲナシ、更ニ細

目ニ亘リテ調査研究シ、時ト處トニ應ジテ分配標準率ヲ定メ、尙經驗ニ徴シ二三年毎ニ分配標準率ヲ改正セバ、遠カラズシテ正確ニ近キ分配標準率ヲ制定スルコト、必ズシモ出來難キコトニハ非ザル可シ。今假リニ各要素ノ事業ニ對スル輕重ニ關シ、分類ヲ試ミンニ

### 第一、特種銀行、銀行

日本銀行、正金銀行、勸業銀行等ノ如キ特種銀行ハ、國家ノ保護ニヨル特種ノ權限ヲ以テ營業シ、又其盛衰ハ社會ノ經濟狀態ニ依テ左右セラル、モノナレバ、要素ノ價值ハ國家ヲ第一トシ、社會之ニ次グナルベシ。

一般銀行ハ、特種銀行ヨリ國家ノ特別保護ヲ除キタルモノナリ。

### 第二、水力發電業

該事業ノ有利ナルト否トハ、山河自然ノ形勢ト附近ノ社會ノ狀態如何ニ依ツテ略決定スルモノナレバ、要素ノ價值ハ自然ヲ第一トシ、社會之ニ次グナルベシ。

### 第三、鑛山業、製鐵業

此等ノ事業ニ在ツテハ、採掘物ノ品質ト坑層ノ如何トガ其收益ヲ左右スルモノナレバ、要素ノ價值ハ自然ヲ第一トシ、勞働者之ニ次グナルベシ。

### 第四、鐵道、電車、電燈、瓦斯事業

此等ノ事業ノ盛衰ハ、沿線若クハ附近地方ノ社會ノ盛衰ト略相比例スルモノト見做シテ差支ナカラシム。故ニ要素ノ價值ハ社會ヲ第一トシテ資本之ニ次ギ、經營者、勞働者又之ニ次

グナルベシ。

### 第五、船舶業

船舶運輸業ハ、國家ノ保護ヲ受クルコト多ク、其盛衰ハ國家及ビ社會ノ盛衰ト略相比例スルモノト見做シテ差支ナカラシカ。故ニ要素ノ價值ハ國家ヲ第一トシテ社會之ニ次ギ、資本、經營者、勞働者又ハ之ニ次グナルベシ。

### 第六、造船、機械製造事業

此等ノ事業ハ國內ニ於テ原料ノ少キコトト先進國製品ノ競争アルトニ依リ、技術ノ經驗ト熟練トガ其必要條件ニシテ、經營從テ困難ナル事業ナレバ、要素ノ價值ハ勞働者、經營者ヲ第一トシ、資本之ニ次グナルベシ。

### 第七、化學工業

諸藥品製造業ノ如キハ、主トシテ科學ヲ基礎トスルモノナレバ、要素ノ價值ハ經營者ヲ第一トシ、勞働者之レニ次グナルベシ。

### 第八、醸造、飲食物、製造業

此等ノ事業ハ理科學ノ應用及調味鹽梅等ノ苦心モサルコトナガラ、主トシテ社會ノ狀態如何ガ事業ノ盛衰ヲトスベキ標準ナルヲ以テ、要素ノ價值ハ社會ヲ第一トシ、經營者、勞働者之ニ次グナルベシ。

### 第九、紡績、織物、製絲業

此等ノ事業ハ内地向輸出向等ノ差アレ共、製品ハ皆日々世界的ノ影響ヲ受ケ而モ多クハ一區劃内ノ工場ニ於テ操業シ經營サル、ヲ以テ、其他ノ産業例ハ、電燈、鐵道等ニ比スレバ、其

所在地附近ノ自然ノ形勢若クハ所在地町村ト直接ニ交渉スル所少ク、稍獨立ノ營業ヲナシ得ベシ、故ニ事業ノ盛衰ハ、經營者ノ技能ト労働者ノ熟練如何トニ關スルコト大ナリ、サレバ要素ノ價值ハ、經營者、労働者ヲ第一トシ、資本之ニ次グナルベシ。

### 第十、漁業

該事業ニ在ツテハ、其收益ノ多少ハ、自然ノ状態ト労働者ノ勤勞如何トニ依ルモノナレバ、要素ノ價值ハ、自然ヲ第一トシ、労働者之ニ次ギ、資本、經營者又之ニ次グナルベシ。

### 第十一、土木、建築業

此等ノ事業ハ、社會ノ盛衰如何ニ伴ツテ消長アルモノナレバ、要素ノ價值ハ、社會ヲ第一トシ、經營者、労働者之ニ次グナルベシ。

シ。

### 第十二、通信業

該事業ノ繁閑盛衰ハ、專ラ社會ノ狀況如何ニ依ツテ左右セラレ、モノナレバ、要素ノ價值ハ、社會ヲ第一トシ、労働者、經營者之ニ次グナルベシ。

### 第十三、圖書、出版業

此等ノ事業ハ、其性質上、要素ノ價值ハ、社會ヲ第一トシ、經營者之ニ次ギ、労働者又之ニ次グナルベシ。  
各要素ノ事業ニ對スルノ價值ノ概念ハ、大體右ノ如シト假定スルモ、純益ノ分配率ハ、時ト處トニ依ツテ異リ、必ズシモ要素ノ價值ニ比例スルモノニハ非ザルベシ。  
例ヘバ、特種銀行ハ、其要素ノ價值トシテハ、國家ヲ以テ第一トスレ

共、サレバトテ最多ノ配當率ヲ無條件ニテ國家ニ賦與スルコトハ、  
 經濟界ノ事情ニ顧ミテ、當ノコトニシテ、矢張り或程度マデハ、資  
 本經營者及労働者ニ對シテ、相當ノ率ヲ定メテ先ヅ配當セザルベ  
 カラザルナリ。又鑛業、漁業等ニ於テハ、自然ヲ第一トスレ共、最多  
 ノ配當率ヲ無條件ニテ自然ニ分與スルコトハ、從來ニ於ケル斯業  
 ノ實狀ニ照シテ甚ダ不當ナルヲ以テ、同ジク或程度マデハ、労働者、  
 資本家及經營者ニ對シテ相當ノ率ヲ定メテ先ヅ配當セザル可カ  
 ラザルナリ。斯クノ如ク考フル時ハ、各要素ニ對スル純益分配率  
 ヲ定ムルニハ、左ノ如キ條件ヲ必要トスベシ。

第一、資本ノ所得高即チ利息ト利益分配トヲ合シタル合計高ガ

第一類(銀行、鐵道、電車、發電業)ニ於テ八分

第二類(船舶、諸製、造工業等)ニ於テ壹割貳分

第三類(鑛業)ニ於テ壹割五分

第四類(漁業)ニ於テ貳割

ニ達スルマデハ、純益ハ資本、經營者及労働者ノ三者ノミニテ  
 分配スルコト

第二、資本ノ所得高ガ前記以上ナルトキハ、積立金ヲ増シテ、社會、  
 自然ノ分配タルベキ社會幸福増進資金ニ分配スルコト

第三、資本ノ所得高ガ第一ノ各項ニ於テ、一割、一割五分、二割、二割  
 五分以上ナルトキハ、第二ノ分配以上ニ、尙研究改良ノ資金ヲ  
 多クスルコト

第四、資本ノ所得高ガ第一ノ各項ニ於テ、一割二分、二割、二割五分、  
 三割以上ニ達シタルトキハ、國家ニ對シテ分配スルコト

第五、非常或ハ其他ノ事故ニ因リテ、莫大ノ過當利得ヲ得タル場

合ト雖モ、資本ノ所得ヲ或程度ニ制限シ、剩餘ハ積金及國家社會、配當金トスルコト

第六、分配ノ標準率ハ大體ヲ定ムルモノニシテ、細目ハ地方ニ依リ異ルモ差支ナキコト

第七、同種ノ産業ニテモ、労働者ノ數多キモノハ其分配率ヲ増スコト。但シ労働者ハ或ハ勤続期限ニ依リ或ハ平素ノ資格ニ依リ各其分配率ヲ異ニスベキコト

第八、利益ノ多少ニヨリテ分配率ヲ變ズルコト

#### 四、純益分配率

或製造工業ニ就キ分配ノ假想ヲ試ミンニ、總益金中ヨリ先ヅ資本ノ利息及積立金ヲ控除シテ、殘餘ノ純益分配率ハ

資本	五〇%以下
經營者	二五%以下
労働者	二五%以下
國家	五%以上
社會幸福増進資金	五%以上
特別積立金	若干
改良研究資金	若干
ナルベシ。然ルニ現行ノ資本主義組織ニ於テ一般ニ行ハル、分配率ハ約	
法定積立金	五%
準備積立金	五
其他ノ積立金	

重役賞與金

五—十

社員賞與金

職工賞與金

職工社員保護資金

株主配當金

四十—八十

後期繰越金

ナリ。大體右ノ如キ次第ナルヲ以テ、産業ヲ事業別トシテ資本金額、利益金額ヲ假定シ、一方既設産業ノ利益分配割合ヲ参照シ、以テ理想的ノ利益分配標準表ヲ製作スルコトヲ得ベシ。而シテ此表ニシテ稍正鵠ヲ得タル者トスレバ、各事業毎ニ斯ル表ヲ作成シ、以テ分配ノ標準トナセバ可ナルベシ。斯ノ如クスルトキハ、各要素ハ各利害ヲ共ニシ、勞資ノ二者ハ勿論其他モ一齊ニ協調シテ爭議

而シテ斯カル標準率表ヲ作成スルニハ、各事業ノ性質ヲ精査シ總ユル統計ヲ作り、且ツ國家ノ大局ヨリ觀察シタル觀念ヲ基礎トセザル可カラザルヲ以テ、或ハ學理ニ捕ハレタル、或ハ新思想ニ捕ハレタル或ハ資本ニ、勞働ニ、技術ニ捕ハレタル、一箇人又ハ數人ニテ作成スベキモノニ非ズシテ、宜シク産業各要素ノ代表者ヲ網羅セラル特別ノ産業調査會ヲ組織シ、之ニ依ツテ以テ公平無私ナル純益分配標準表ヲ作成ス可キナリ。

### 五、産業調査會

産業調査會ハ、資本、經營者、労働者、國家、社會、自然ノ六要素ノ代表者ヲ以テ組織スベク、代表者則チ委員ノ選出ハ、假ニ左ノ如クスレバ可ナランカ。

資本 全國ヲ數區ニ分チ、各區ニ於ケル産業資本金額ニ略比例シタル委員數ヲ、該區内ノ商業會議所議員ヲシテ選出セシムルコト

經營者 前項同様ニ全國ヲ數區ニ分チ、各區ニ於ケル産業經營者數ニ略比例シタル委員數ヲ、該區内ノ各經營者ヲシテ選出セシムルコト

労働者 前項ト同一ノ方法ニヨリテ委員ヲ選出スルコト

國家 産業ニ最モ關係深キ且ツ責任アル官吏ヲ任命スルコト

社會 衆議院ヲシテ選出セシムルコト

自然 自然ニ關スル科學、思想等ヲ研究スル者、例ヘバ大學教授、宗教家等ノ中ヨリ選出スルコト

而シテ委員數ヲ假ニ百名トスレバ、左ノ割合ニ分配サルベシ。

資本	二五	經營者	二〇	労働者	二五
國家	一〇	社會	一〇	自然	一〇

尙産業調査會ハ、之ヲ内閣ニ附屬セシムルモ、拘束ハ受ケザルコトトシ、其目的ハ労働問題ノ解決ヲ主眼トシテ、法規ノ改廢及既設産業ト新設産業ノ關係等産業ニ關スル諸問題ヲ調査研究シ、所謂工業立國ノ國策ヲ樹立スルコトヲ期ス。尙其第一回ノ會合ハ内閣ニ於テ招集成立セシメ、爾後ニ於ケル諸問題ハ、會ノ決議ニ依リ決



定スルコト、セバ可ナルベシ。

ヲ醸サザルニ至ルノミナラズ、進ンデハ産業發展ノ爲メ均シク努力スルコト、ナルベシ。假ニ直接ニハ努力セザル者アリトスルモ、少クモ好意ヲ以テ産業ヲ遇スベク、決シテ悪意ヲ挟ムコトナカルベキナリ。

## 第七章 物價、生活費、賃銀

物價騰貴ニ從テ生活費嵩ミ、生活費嵩ムガ故ニ賃銀ヲ増加スルノ必要生ジ、又賃銀高キガ故ニ物價ガ騰貴シ、物價騰貴スルニ從テ生活費嵩ムトハ當然ノ次第ニシテ此點全ク追ッ掛合ノ軸ゴツゴニシテ、何レヲ先何レヲ後トモ爲ス可カラザルナリ。然ルニ世ニハ物價ノ下落ヲ先トスル人アリ、生活費ノ低減ヲ先トスル人アリ、又賃銀ノ低減ヲ先トスル人アリテ、各種各様ノ主張アレドモ何レモ無理ナル注文ニシテ、要スルニ同時ニ何レモノ低減ヲ行フニ非ザレバ、到底圓滿ナル解決ヲ望ムコト能ハザルナリ。而モ同時ニ之ヲ行フコトハ事實言フ可クシテ行ヒ難キ事ナレバ、其間ニ或風波ヲ起シ、經濟社會ニ混亂ヲ招クコトハ免レザルコトナルベシ。

然レ其人々相互ノ間ニ互讓ノ精神ト犠牲ノ觀念トガ普及スルニ從テ、此混亂ハ益々輕減スベキ譯合ノモノナレバ、政治家、若クハ有志者ハ可及的之ガ圓滿ナル解決法ヲ研究案出シテ以テ其實現ヲ企圖セザルベカラザルナリ。

## 物價

我國ノ物價ノ高キコトハ正ニ世界第一ニシテ、東京ノ物價ハ倫敦、紐育等ノソレニ比シ遙カニ高シト云フ。數年前マデハ、英國ハ我四五倍、米國ハ其レヨリ一層高シト稱セラレタリシコトヲ想ヘバ、實ニ隔世ノ感アリテ寒心ノ外ナキナリ。現今我國内ニ蟠マル勞働爭議、思想惡化、輸入超過、教育費、豫算編成難等ノ諸問題ハ、其大半ハ、物價問題ニ基クモノナリ。故ニ此現狀ヲ打破シテ物價ノ調節

ヲ圖ルコトハ、誠ニ急務中ノ急務ニシテ、先覺者ノ等シク慎重ナル考慮ヲ費シ居ル所ノ者ナリ。之ニ就テハ公設市場ノ設置可ナリ、小賣商ノ暴利取締可ナリ、米價引下策可ナリ、世帯ノ會ノ宣傳可ナリ、其等ノモノ其方法ニシテ宜シキヲ得バ何レモ相當ニ效果アルモノナレバ、宜シク誠意ヲ以テ之カ實行ヲ期セザル可カラザルナリ。去リ乍ラ、其等ハ單ニ表面ニ現ハレタル事實ニ就テ、個々ニ其解決ヲ試ミントスル者ニ過ギズシテ、其根本ヲ解決セントスル策ニハ非ザルナリ。抑モ物價ノ高低ハ經濟學者、財政家が論ズル如ク、通貨ノ多少ト信用ノ程度トニ依ツテ定マルコト勿論ナレドモ、ソハ一面ノ解釋ニシテ、他ノ一面ニ於テハ物價ハ原料費、生産費及分配費ノ如何ニ依テ、左右セラル、コト大ナルヲ以テ、從テ之ガ調節ヲ圖ルガ爲メニハ

- 一、物資ノ豊富ナルコト
  - 二、生産費ヲ節約スルニト
  - 三、分配方法ヲ整理スルコト
  - 四、標準相場ヲ定ムルコト
- 等ハ其最モ肝要ナル條件ナルベシ。

一、物資ノ豊富ナルコト

物資ヲ豊富ニセントセバ、内地ニ於テハ生産ヲ盛ニシ、消費ヲ節約シ、同時ニ海外ヨリ安價ノ物資ヲ輸入セザル可カラザルナリ。然ルニ内地ニ於ケル生産ノ狀況ヲ見ルニ生産者ハ戰時中及戰後ノ好最氣時代ニ占メタル多大ノ利益ヲ夢想シテ不當ニ騰貴シタル其相場ヲ維持センガ爲メニ、同業組合ヲ惡用シテ直ニ生産制限、作業短縮ヲ行ヒ、以テ自己目前ノ利益ヲ圖ルコトニノミ汲々タリ。

製絲業、綿糸紡績業及砂糖製造業ノ如キハ其最モ著シキ實例ナルガ、其他ノ事業ト雖モ大ナリ小ナリ皆然ラザルハナキナリ。之ニ因ツテ我國ガ管ニ輸出ノ減少ヲ來セシノミナラズ、國民ハ支那ニ於テハ僅ニ一斤拾壹貳錢ノ砂糖ヲ、參拾幾錢トイフ高價ニテ買ハザル可カラザルコト、ナレルナリ。又綿糸ノ如キモ英國其他ノ海外相場ニテハ（大正十年七月七日）三十二番手ニテ約二百八十圓位ナリシニ拘ラズ、我國ニ於テハ實ニ三百九十三圓（大正十年七月七日）ト云フ相場タリシコトハ、内地需要ノ景氣ト騰貴的相場トヲ幾分加味シタリシトハイヘ、何トシテモ餘リニ高價ニ過ギタリト言ハザルベカラズ。而モ其原因ノ大部分ハ、前記ノ作業短縮生産制限ト云フ生産者ノ利己的御都合ニ歸着スルナリ。又我國ハ海外ヨリ安價ノ物資輸入ヲ謀ルコト最モ必要ナルガ、聞クトコロニ

依レバ、吾人が消費スル專賣局ノ食鹽ハ、賣下値段ガ百斤ニ付約五圓、小賣値段ガ一斤賣拾錢ナルニ而モ國庫ハ之ニ依ツテ多額ノ收入ヲ得ルニ非ズシテ、事實ハ寧口缺損ナリト云フ。然ルニ若シ支那鹽ノ輸入ヲ自由ニシ之ヲ再製鹽トシテ、販賣スレバ、鹽質ハ日本鹽ヨリ上等ニシテ、而モ代價ハ百斤壹圓貳拾錢即チ壹斤壹錢貳厘ノ割合ニテ供給シ得ベシト云フ。蓋シ斯カル例ハ他ニモ尙幾多アルコトナルベシ。

又我國米穀ノ産額ハ到底人口ノ増加ト伴フコト能ハズ、早晚其不足ヲ來スコトハ明白ナル事實ナルヲ以テ、海外ノ米麥ノ輸入ヲ自由ニシテ之ガ利用ヲ謀ルコトハ最モ急務ナルベシ。即チ米麥ヲ併セテ常食トスル支那ノ食物ノ状態若クハ南京米ノ調理法等ヲ研究シ、又醸造原料トシテモ南京米ヲ利用スルガ如キハ、蓋シ我國

民ノ食料ヲ豊富ナラシムル點ニ於テ最モ必要ノコトナルベシ。

二、生産費ヲ節約スルコト

發明、發見、機械ノ改良應用、自然物ノ利用及産業ノ組織的經營等ハ皆國家的若クハ社會的ニ、勞働ノ能率ヲ増進シ同時ニ生産費ノ節約ヲ圖ル所以ニシテ、吾人産業ニ従事スル經營者、勞働者ノ均シク緊揮一番、滿身ノ努力ヲ傾注セザルベカラザル所ナリ。然ルニ前述ノ如ク、一個宛ノ生産費ノ増加スルニモ拘ラズ、作業ヲ短縮シ生産ヲ制限シテ、單ニ自己ノ利益ノミヲ圖ルガ如キハ、之ヲ國家、社會ノ立場ヨリ觀ルトキハ、全ク勞働ノ能率ヲ無視シ、寧ロ勞働ヲ浪費スルモノニシテ、同時ニ生産費ヲ節約スル所以ニモ非ザルナリ。

三、分配方法ヲ整理スルコト

物資或ハ生産品ヲ需要者ニ配給スルノ方法如何ハ、物價ノ高低ニ

影響ヲ及ボスコト頗ル大ナリ。而シテ其方法トシテハ港灣、鐵道、工場、中央市場、倉庫間ノ相互ノ聯絡ヲ圖ルガ如キハ、其最モ重要ナル事項ナルベシ。聞ク所ニヨレバ、横濱埠頭ヨリ東京倉庫ヘノ運賃ハ、米國ヨリ横濱マデノ運賃ヨリ高く、又一回貨車ノ積替ヲナス人夫賃ハ、百哩ヲ輸送スル運賃ニ略等シト云フ。斯カル状態ナルニ拘ラズ、現在埠頭ト鐵道、鐵道ト工場及工場ト中央市場ト間ノ聯絡ハ殆ンド皆無ノ有様ニシテ各自全然沒交渉ノ觀アルガ如キコトハ、誠ニ遺憾ト言フノ外ナキナリ。斯クノ如キハ、物質的文明移植ノ半途ニ在ル我國トシテハ致方ナキコトナリト言ヘバ其レ迄ナレ共、之ガ整理ト否トハ、物價ノ高低ニ甚大ナル影響ヲ及ボスモノナレバ、決シテ輕々ニ閑却シ去ル可カラザルコトナリ。

又東京市統計課ノ調査ニ依レバ、國稅、府稅ヲ納ムル日用品販賣店

數ハ實ニ驚ク可キ程ノ多數ニシテ、菓子屋ハ七十戸ニ付キ一軒、米屋ハ百五十戸ニ付キ一軒、其他青物、果實商、鳥獸肉商、漬物商、砂糖商、酒商等モ實ニ多數ニシテ尙ホ國稅、府稅ヲ納メザル小賣商ノ數モ略前者ト相伯仲シ居リテ、實ニ東京程小賣商人ノ多キ所ナカルベシトノコトナリ。試ニ事實市中ヲ一見スレバ、小賣店ノ過多ナルコト、電車ノ四通八達シタル今日、尙高足駄、雨傘ノ打扮ニテ、人力車ガタ馬車ヲ唯一ノ交通機關トシタル昔日ノ配置ヲ其儘ニ保存シタルガ如キ觀アリ。又所謂中流階級以上ノ家庭ノ臺所ヲ見レバ、僅カノ日用品ノ爲メニ、數人ノ御用聞キガ、日々出入セザルコトナク、又中流以下ノ臺所ニテモ、數人ノ食糧行商ノ來ルコトハ決シテ珍シキコトニハ非ザルナリ。即チ現在ニ在リテハ如何ナル家庭ト雖モ、蟄居シテ唯々小賣商ノ言フガ儘ノ價格ニテ日用品ヲ購入

シ居ル觀アリ。斯クノ如キノ風習、斯クノ如キノ組織ニテハ、配給費ノ嵩ムコトハ當然ノ次第ニシテ、小賣商ガ暴利ヲ貪ルトイフモ實ハ社會組織上缺陷ニ附ケ込ミタルモノニシテ、小賣商ノ不徳義ナルコトハ勿論ナレ共、社會モ亦其責ノ大半ヲ負ハザル可カラザルナリ。兎ニ角、ソレ等ノ風習ト組織トヲ整理スルニ非ズンバ、徒ニ労働ヲ浪費スルノミニシテ、到底分配費ノ節約ヲ期スルコト難ク、畢竟ハ共喰ヒ共倒ニ終ランノミ。

此等ノ問題ヲ改良シテ之ガ圓滿ナル解決ヲ與フルガ爲メニハ、中央市場若クハ公設市場ハ其最モ有力ナル機關タラザル可カラザルナリ。而シテソレ等ノ市場ハ生産者、運輸機關及倉庫ト十分聯絡ヲ有シ且ツ需要者へ配達スルニ最モ好都合ノ位置ニ在リテ、而モ其商品ノ價格ハ適當ニ安價ノモノタラザル可カラザルナリ。

今一例ヲ舉グレバ、東京市ニ於ケル一ケ年ノ消費米約二百五十萬石ハ、深川倉庫ヨリ精米所ヲ經テ、市内四千餘ノ米屋ニ馬車ヲ以テ運送サレ、然後日々御用聞ニ依テ戸々ニ配達サル、次第ナルガ、其量ハ一軒ノ米屋ガ取扱フ量ハ一ケ月平均五十石ナリ。米屋ハ此五十石ノ賣上ヨリ得ル利益ヲ以テ高キ諸税ヲ負擔シ、多數ノ用人ヲ使役シテ營業スルコトナレバ、少クモ一石ニ付キ四五圓ノ利益ヲ得ザル可カラザルハ當然ナリ。然ルニ公設市場ヲ設置シテ此等ノ米屋數ヲ出來得ルダケ減少シ、且ツ市場ニハ倉庫ト輸送機關(例ヘバ夜間電車ヲ利用スル如キ)トヲ完備セシメテ、迅速ニ配給ヲ行フトキハ、消費者ハ一石ニ付キ優ニ三圓位ハ節約シ得ベシト云フ。果タシテ然リトセバ、公設市場ノ設置ニ依リ、米ノミニテモ一ケ年ニ七八百萬圓ハ之ヲ節約シ得ベキナリ。又其他ノ日用

品ハ米ニ比スレバ、生産者ト小賣商トノ關係一層複雑ニシテ、從ツテ卸値ト小賣値ノ差ノ大ナルコトモ普通ナレバ、ソレ等總テノ日用品ノ分配方法ヲ整理スルコトヲ得バ、市民生活費ノ節約ハ、蓋シ莫大ナルモノアルベキナリ。大戰後ニ於ケル經濟界ノ激變ニ際シ、東京府及東京市ノ施設シタル公設市場ハ、事實上長官、議員及醜類等ノ餌トナリ了リタレバ、其結果ノ面白カラザルコトハ無論ナレ共、其施設ノ内容ニ就テ見ルモ、ソハ全ク公設市場ナルモノ、主旨ヲ解セズシテ唯一時ノ申譯若クハ間ニ合セニ、兩後ノ筭ノ如クニ簇生セシメタルモノナルヲ以テ、現在ノ如キ不始末ノ状態ヲ招クコトハ、寧ロ必然ノ結果ト言ハザル可カラザルナリ。

四、標準相場ヲ定ムルコト

物價ノ大ナル變動ト暴利等トヲ抑制シテ、物價ヲシテ安定ノ状態

ニ置カント欲セバ、先ヅ物價ノ標準相場ヲ定ムルコト最モ肝要ナルベシ。標準相場トハ、原料代價、生産費及分配費ヲ合計シ、之ニ需要供給ノ如何ヲ按ジテ、相當ノ利益ヲ加算シタル合理的ノ相場ヲ云フナリ。例ヘバ綿糸三十二番手ノ相場ハ

金一四〇、二五圓 米綿三百四十斤代

但シ百斤ニ付四十一圓二十五錢(大正十年七月ノ相場)

金七三、二八 概略ノ生産費

計金二一三、五三 大正十年七月頃ノ工場元價

ナルガ、之レニ相當ノ利益ヲ加ヘタルモノ、即チ金二百六十圓乃至二百八十圓ハ時價ナリ。小賣相場ハ此外ニ相當ノ間屋ノ利益ヲ加ヘタルモノ

位ガ標準相場トシテ最モ適當ノモノナルベシ。勿論需要供給ノ

關係ニ依リ又ハ期節ニ依リ、若クハ外國ニ於ケル相場如何ニ依リ標準相場ト時價トノ間ニ幾分ノ差ヲ生ズルコトヲ免レザルベシト雖モ、前項物資ノ項ニ記載シタル如ク、綿糸ノ相場ガ英國其他海外ニ於テハ二百八十圓許ナル際ニ、獨リ我國ニ於テノミ三百九十圓以上ト云フガ如キハ、如何ニ我國ノ商人ガ投機的相場ヲ弄スルトハイヘ、餘リニ甚シキ懸隔ト言ハザル可カラザルナリ。而モ斯クノ如キコトハ、我國ニ於テハ決シテ珍ラシキコトニ非ズシテ、獨リ綿糸ノミナラズ、他ノ日用品ト雖モ皆然ラザル物ハナキナリ。斯クモ物價ノ不安定ナル所以ハ、産業組織ガ利己的資本主義ニ由レルト分配組織ガ徒ニ中繼商ノミ多クシテ複雑ヲ極メ居ルトニ因ルトハイヘ、一方國民則チ一般消費者ガ、物品ノ相場切言スレバ、其標準相場ニ無智識ナルコトニ原因スルコト亦大ナリト言ハザ

ル可カラザルナリ。

以上ノ如ク中央市場、公設市場ハ、日用品ノ分配ヲ圓滑ニスルト同時ニ、標準相場ヲ定メテ、其觀念ヲシテ一般ニ普遍セシムルモノナレバ、其職責タルヤ甚ダ重要ナルモノナリ。

### 生活費

標準相場ナクシテ標準生活費ノアル筈ナキヲ以テ從テ我國ニハ歐米ノ如ク生活費ノ指數ナルモノナシ。故ニ今日生活ノ程度ガ如何ニ向上シツ、アリヤ、又生活費ガ如何ニ増加シツ、アリヤ、數字ヲ以テ之レヲ知ルコト能ハズト雖モ、生活費ハ大體其大部分タル日用品ノ價格ガ騰貴シタル指數ニ比例シテ増加スル以上ニ、尙生活程度ノ向上ニ依テ一層増加シ、而シテ今尙増加シツ、アルコ



トナルベシ。現ニ衣類ニ就テモ太地ノ綿布ヨリモ細地ノ綿布、綿布ヨリモ綿毛或ハ絹毛ノ交織物、交織物ヨリモ毛織物或ハ絹織物ト一般ノ需要ハ、一言ニシテ言ヘバ上等物即チ高價ノ物ニ向ツテ傾キツ、アリテ、之ヲ數年前若クハ戰前ニ比スレバ、其間ニ相當ノ懸隔アルコトハ拒ム可カラザル事實ナリ。又米ハ價格ノ差甚シキモノアルニ拘ラズ、一般ニハ外國米ヲ用ユルコトヲ好マズ或ハ用ユル者ノ至ツテ少キコトハ事實ナリ。斯ノ如キハ一面ヨリ見レバ生活ノ向上ニシテ、又他面ヨリ見レバ一般ニ贅澤ニ傾キツ、アルモノト言ハザルベカラズ。

近來文化生活ナル流行語アリ。其趣旨トスル所ハ、社會教育ノ普及ヲ圖リテ一般民衆ヲ啓發シ一方ニ平等ナル人格ト其責任觀念トヲ充分ニ自覺セシムルト共ニ他方ニハ、新智識ヲ實生活ニ應用

シテ能率ノ高キ進歩セル經濟生活ヲ營マシメ、以テ精神的並ニ物質的ニ、最大多數者ノ最大幸福ヲ實現スルコトヲ期スルニ在ルガ如シ。誠ニ結構ナル次第ニシテ余輩ト雖モ、其實現ヲ希望スルヤ切ナリ。去レ共稍トモスレバ「日本ニ於テ文化生活ト云フコトハ歐米式生活ニ近ヅクト云フコト即チ大體歐米式生活ノ模倣ト云フコトニナル」ト稱スル者アル如ク、要スルニ文化生活ノ標語ハ最新文明ノ利器ヲ家庭ニ應用ス可シト言ヒ、或ハ食物ヲ改良シテ朝食ヲ成可ク簡易ニスルコトガ文化生活ノ最モ注意ス可キ點ナリト言ヒ、或ハ婦人ノ解放ト言ヒ、或ハ戀愛生活ト言ヒ、或ハ藝術生活ト言ヒ、或ハ勞動時間ノ短縮ト言ヒ、或ハ生活ニ餘裕ヲ與フ可シト言ヒ、或ハ貴族富豪ノ専有スル享樂ヲ一般民衆ニ普及セシム可シト言フガ、其主ナル趣旨ナルガ如シ。假ニ各自ガ確乎タル責任觀

念ヲ以テ此理想ヲ實現スルコトヲ得バ、ソハ余輩ノ希望スル國民思想ノ健實ナル發達ト生活ノ向上竝ニ安定ト互ニ相合致スルモノニシテ、至極結構ナルコトナレ共、サテ其實際ヲ視ルトキハ、徒ニ歐米ニ於ケル華美ナル生活ト便利ナル生活トノ表面ノミヲ模倣シテ其根本タル經濟的基礎ヲ少シモ顧慮セザルガ如キ、若クハ兩者ノ風俗、習慣ノ差異ヲ更ニ意ニ介セザル如キ觀ナキヲ得ザルナリ。是レ尙自由平等ナル語ガ、無學ノ下級社會ニ依ツテ、其眞ノ意義ヲ理解サレズシテ單ニ文字通りニ各人ハ絶體ニ自由ニ又平等ナルカノ如ク誤解セラル、ト同様、其結果ハ徒ニ表面的文字ニ眩惑シテ、經濟的ノ根幹ヲ忘ル、如キ憂ナシトセザレバ、斯カル流行語ヲ實生活ニ應用セントスルトキハ、大ニ深思熟慮セザル可カラザルナリ。

物資ノ節約 吾人日本人ハ由來生活上ニ浪費多キ國民ナリトハ歐米人士間ノ或部分ニ於ケル定評ナルガ如シ。即チ二重生活ノ如キ、暴飲暴食ヲ強ユル習慣ノ如キ、時間ヲ守ラザル習慣ノ如キ、又ハ水道、瓦斯電燈等ヲ浪費シテ意トセザルガ如キ、衣類器具ノ耐久力ニ對スル鑑識力ニ乏シキ如キ、ソレ等缺點ヲ數ヘ來レバ、浪費ハ實ニ多々アリト言ハザル可カラズ。蓋シ浪費ト生活ノ向上トハ全ク別問題ニシテ、假ニ此浪費ヲ合理的ニ節約スルコトヲ得バ、生活ノ向上ヲナシツ、物資ヲ節約シ得ル數量ハ蓋シ莫大ナルモノアルベシ。而シテ節約物資ノ過剩ハ物資ノ豊富トナツテ物價ノ下落ヲ意味スルコトハ言フ迄モナキコトナレバ、浪費ノ節約ニ就テハ十分ノ研究ヲ怠ラザル可ク希望ニ堪エザルナリ。

聞ク所ニ依レバ、近來東京ニ於ケル學生ノ學資金ハ、月六七十圓ヲ要

シ、而モ修學後ノ月收ハ僅ニ四五十圓ニ過ギズシテ生活ヲ支フル  
 ニスラ由ナク、妻帯シテ一家ヲ成スモ、數年間ハ家郷ヨリ補助ヲ受  
 ケツ、アル者頗ル多シト云フ。富豪、華族等ノ子弟ナレバイザ知  
 ラズ、一般階級ノ子弟ニシテ斯カル状態ニ在ルコト甚ダ遺憾ニ堪エ  
 ザルコトナルガ、是レ抑モ何ガ故ナリヤ、其原因ニ就テハ或ハ物價ノ  
 騰貴ト言ヒ或ハ思想ノ變化ト言ヒ或ハ生活ノ向上ト言フ者アラ  
 ンモ、而モソハ何レモ一面ノ觀察ニシテ、他ノ一面ニハ、書生ノ生活  
 ガ社會ノ進運ニ伴フテ一般ニ進歩シ來リタリトモ言フベキカ、兎  
 ニ角贅澤ニ趨キツ、アルコトハ拒ム可カラザル事實ナリ。是レ  
 將來ニ於テハ社會ノ中堅タリ、又世ノ師表タルノ責任ヲ有スル書  
 生ガ、先ヅ社會ニ卒先シテ深ク自省セザル可カラザル要點ナル可  
 シ。特ニ女子ハ家庭生活ノ主宰者ナレバ、計入制出ナル金言ヲ服

膺シテハ、經濟的基礎ノ上ニ生活ノ向上ト安定ヲ期スベキ堅實ノ  
 思想ヲ抱カシムルヤウニ、之ガ教育ノ任ニ在ル慈父タツ悲母タリ  
 又女子教育者タル者ハ、充分ノ覺悟ヲ要スベキナリ。

### 賃銀

賃銀ハ勞働問題ノ物質的焦點ニシテ、勞働爭議ノ標的タルモノナ  
 リ。而シテ賃銀ノ高低ハ、一國産業ノ盛衰ト相關聯スルコト大ナ  
 ルヲ以テ、現今ノ如ク經濟的變化極マリナキ際ニ於テハ、其決定ハ  
 容易ノ業ニ非ズト雖、各種ノ統計ヲ基礎トシ、舊來ノ或標準ヲ斟酌  
 シ、兎ニ角或範圍即チ最低、最高ノ標準賃銀ヲ定ムコトハ必要ナル  
 ベシ。而シテ其標準ハ、職業ノ性質ニ依リ、又地方ノ狀況ニ據リテ  
 差異アルハ勿論ノコトナリトス。

卷末ニ添附シタル表ハ物價、米價、大日本綿糸紡織同業聯合會ノ職工賃銀及東京某紡織會社職工賃銀ヲ何レモ指數ヲ以テ表示シタル者ナリ。斯ル表ヲ各事業毎ニ作成スルコトハ、賃銀ヲ決定スル上ニ有力ナル資料タルベシ。又斯ル表ハ觀察ト研究ノ方法如何トニヨリテハ、勞働階級者ノ生活ノ安定及其向上ノ程度如何ヲ示スコト、ナルベク尙之ヲ勞働爭議ノ萌生ト時期トニ對照セバ、一般思想變化ノ傾向ヲ想像スル資料トモナルベシ。

## 第八章 結論

### 一、我産業ト支那

我國ノ産業ガ長大足ノ進歩ヲ遂ゲタルコトハ、我モ信ジ人モ稱スル所ナレ共、之レヲ英米ノ産業ニ比スルトキハ、未ダ著シク幼稚ナルコトハ明ナル事實ナリ。現ニ我國ノ貿易額及ビ富ノ産出高ノ一人宛平均額ガ、英米國ノ幾分ノ一若ハ十幾分ノ一ナルヲ見レバ、思半バニ過グルモノアルベシ。此幼稚ナル産業スラ、其表面ノミヲ見レバ、何ノ事モナク平穩無事ナルガ如シト雖モ、其經營者トシテハ、十年若クハ數十年間苦心慘憺ノ結果、漸クニシテ今日ノ基礎ヲ築キタルモノニシテ、實ハ一朝一夕ニシテ成リタルモノニ非ザ

ルナリ。故ニ今日好成绩ナル事業ノ現状ノミヲ見テ、直ニ之レヲ真似ントスルモ、ソハ殆ンド不可能ノコトナリ。試ニ近年ニ於ケル我産業ノ事業成績ヲ視ハンガ爲メニ、日本勸業銀行調査課ノ調査ヲ舉グレバ、工業會社ノ利益配當年率ハ

事業別利益配當年率

	八 年 上	八 年 下	九 年 上	九 年 下
染 織 工 業	四、六九 <sup>割</sup>	四、九八 <sup>割</sup>	四、八四 <sup>割</sup>	二、一 <sup>割</sup>
化 學 工 業	二、〇八	二、一六	二、八九	一、三一
機 械 工 業	二、四七	二、四八	二、二七	一、五五
飲 食 物 工 業	二、六〇	二、六五	五、五四	二、九九
雜 工 業	二、二一	二、四一	一、九三	一、一六
以上工業平均	三、一六	三、二七	三、九五	一、八七

精 練 業				、二七
電 氣 業				一、〇八
瓦 斯 業				、八六
鐵 道 及 軌 道				一、〇一
總 平 均				一、六六

ニシテ戰時中若クハ戰後ノ熱狂時代ニ於テハ殆ンド熱狂的高率ノ配當ヲナシタレトモ、恐慌來ノ第一期即チ九年下半年期ニ至ツテハ、急轉直下ノ勢ヲ以テ利益ノ減少ヲ來シ、特ニ精練業ノ如キ重要産業スラ如何ニモ見苦シキ状態ニ陥レリ。爾來、各事業トモ世界的不景氣ト熱狂時代ニ於ケル經舉ノ不始末トヲ暴露シツ、アレバ、配當率ノ一層激落セルコトハ蓋シ想像ニ難カラザルベシ。斯ノ如キハ經濟界ノ大勢ニシテ何レノ産業ト雖モ、多少ノ打撃ヲ蒙

ラザルモノナシト雖モ、就中好況時代ニ叢出シタル産業ハ、殆んど全部滅亡ニ歸セルカノ觀アリ。見ヨ、製鐵業、造船業若クハ紡織業ノ中ニ於テ、今日隆々タル盛運ヲ示スモノハ皆十數年以上ノ基礎アルモノノミニシテ、好況時代ニ成立シタルモノノ如キハ、事業ノ維持スラ困難ナル状態ニ在ルコトヲ。而モ其他ノ新設産業ノ如キモ概ネ皆然ラザルハナキナリ。之ヲ以テ見ルモ産業ノ成立ガ如何ニ容易ナラザルモノナルカヲ察スルニ難カラザルベシ。由來歐米人が我國ヲ羨望シ若クハ畏怖シタル第一ノ理由ハ、我國ハ物價安ク生活容易ニ勞銀低廉ナリシガ故ナリシコトハ、周知ノ事實ナリ。又我國ノ産業及製造工業ガ、長足ノ進歩ヲナシテ商權ヲ支那、南洋方面ニ擴張シ得タルコトハ、又此處ニ恃ム所アリシガ故ナリ。然ルニ今ヤ我國ハ物價、生活費、勞銀ハ前配ノ如クニ暴騰

シ、其恃ム所以ノ第一ノ理由ハ已ニ根本的ニ消滅シ、而シテ基礎ノ薄弱ナル、經營ノ幼稚ナル技術ノ不熟練ナル而モ天惠ノ稀少ナル産業ヲ以テ歐米ト對等ノ競争ヲナサザル可カラザル地位ニ立テルコトナレバ實ニ非常ナル大變革ニシテ、轉タ寒心ニ堪エザルナリ。

然レドモ歐米ト對等ノ競争ヲナサザル可カラザル猶忍ブベキナリ。何トナレバ、物價、生活費及賃銀ヲ比較スルトキハ、彼我高低アリト雖、尙國民ノ風俗、習慣ヲ異ニシ、生活ノ基準モ亦違ヒ且遠隔ノ地ナルヲ以テ、解釋ノ仕様、注意ノ如何ニ依リテハ、其間幾分カ緩和ノ餘地アルヲ以テナリ。然レ共隣國支那ニ於ケル實狀ト相對照スルトキハ、我國民ハ甚ダシキ不利ノ地位ニ立タザル可カラザルナリ。如何トナレバ今日支那ノ物價、生活費及賃銀ノ極メテ安キ

コトハ、理由ノ那邊ニ存スルニモセヨ、事實ハ事實トシテ動かサベカラザレバナリ。即チ北京ニ於テハ牛肉一斤二十八錢、雞卵百個一圓位ニシテ、洋服ノ如キモ亦我國ノ半値以下ナリト云フ。以テ其一般ヲ想像スルニ難カラザルベシ。又賃銀ノ如キモ至ツテ安ク、現ニ黎共供氏ガ澤縣石炭坑ニ於テ使役スル坑夫ノ賃銀ハ一日二十五錢、又奉天ニ於テ邦人ノ經營スル某工場職工ノ賃銀ハ一日三十五錢、上海、青島ノ如キ物價ノ高キ土地ニ於テスラ、職工ノ賃銀ハ五十錢内外ニシテ、其他ノ地方ニ於テモ大同小異ナリト云フ。而モ職工ニハ志望者頗ル多ク、且其性柔順ニシテ誠實ニ勞働スルガ如シ。之ヲ我國ノ現狀ニ比スレバ、實ニ雲泥ノ差アリト云フベキナリ。斯ノ如キ状態ナルヲ以テ、支那ハ其生活ノ極メテ安樂ナルハ言フマデモナク、事業經營モ亦從テ有利ナレバ、我國ノ資本家

事業家ガ支那ニ於テ、紡績、製鐵及其他ノ事業ヲ興サント苦心シツ、アル者頗ル多キ次第ナリ。現ニ上海ニ於テハ、邦人ノ經營スル紡績二十萬鍾許アリ、又青島ニ於テハ既ニ土地ヲ買入レテ工場建築ニ着手シ居ル者多シ。故ヲ以テ、支那ノ紡績ハ數年前マデハ僅々四五十萬鍾ニ過ギザリシニ、現今ニテハ上海ノミニテモ約百二十萬鍾、其他ヲ合スレバ約二百萬鍾ノ多キヲ算スルニ至レリト云フ。是レ支那ガ原棉栽培ノ好適地ナルニ因ルトハ雖、勞働賃銀ノ低廉ナルコトモ亦其重ナル原因ト言ハザル可カラズ。我内地ノ紡績業ハ實ニ之ト競争セザル可カラザル立場ニ在ルコトナレバ、今後漸次ニ窮境ニ傾クベキコトハ、想像スルニ難カラザルベシ。而シテ其他ノ事業トテモ大低ハ其軌ヲ一ニスベシ。我國ノ資本家及事業家ガ、支那ニ投資シテ支那ノ産業ヲ開發スル

コトハ我國ノ爲メ又タ支那ノ爲メ、將タ人道ノ爲メ、誠ニ結構ノコトニシテ、之ニ因リテ内地ノ産業ガ假ニ窮境ニ立ツノ時アルベシトスルモ尙忍ブベキナリ。併シ乍ラ此形勢ニシテ持續セバ、支那ニ對シテ歐米諸國ハ投資ヲ誘導スルニ到ルコトハ自然ノ勢ニシテ、其結果トシテ支那ノ産業ガ開發サルレバ、則チ我内地ノ産業、製造工業ハ、歐米諸國ト直接ニ競争ヲナスベキ地位ニ立タザルベカラズシテ、實ニ寒心ニ堪ハザル次第ナリ。或財政經濟論者ガ、之ヲ以テ日本産業ノ破滅期ナリト論ジテ自ラ弔詞ヲ述べタルガ如キハ一面ヨリ視レバ至極尤モナル觀察ト言ハザルベカラザルナリ。我國民ガ此際上下舉テ物價、生活費、勞銀ノ低落ノ爲メニ協同努力スルト同時ニ、此大勢ニ鑑ミテ、資本家、經營者、労働者乃至國家社會モ共ニ共ニ、労働爭議ヲ惹起セザル由之ガ適當ノ方策ヲ案ジ、

協同一致シテ現在ノ産業ヲ保護シ、進ンデハ一層其隆盛ヲ期スルト共ニ新規産業ノ發達ヲ圖リ以テ、國家富強ノ策ヲ講ゼザルベカラザル所以ハ全ク此點ニ存スルナリ。

## 二、労働問題ハ社會全體ノ問題ナリ

労働問題、労働爭議ト言ヘバ、單ニ労働者ト資本家トノ間ノ問題ニシテ、二者ノ間ニ於ケル利益ノ爭奪戰ナルガ如クニ考ヘ、二者以外ノ社會ニ於テハ、我關セズ焉ナル態度ヲ取ルモノ多シ。彼等ハ其解決ヲ二者ノ交渉ノミニ委シテ之ヲ對岸ノ火災視シ、爲メニ如何ナル損害ヲ社會ニ及ボスモ致方ナシトシテ、袖手傍觀セリ。政府モ亦治安ノ妨害タラザル限リハ、其被害ノ如何ニ大ナルカヲモ顧ミルコトナシニ、成ル可ク之ニ干涉セザルヲ以テ主義トナセルモ



ノ、如シ。尤モ現今ノ産業組織即チ資本主義的産業組織ニ於テハ、獨リ資本ノ勢力ノミガ旺盛ナレバ、斯カル觀念ニ囚ハル、コトモ、又無理カラヌコトナガラ、國家ハ國民ノ國家ニシテ或一部ノ資本家、勞働者ノ國家ニ非ズ又社會ハ社會民衆ノ社會ニシテ或一部ノ資本家、勞働者ノ社會ニ非ザルヲ以テ勞資二者間ノ爭議ノ爲メニ、國家、社會ガ甚大ナル脅威ヲ受ケナガラ、換言スレバ、少數者ノ爭議ノ爲メニ多數者ガ甚大ナル脅威ヲ受ケナガラ、政府モ、社會モ之ヲ如何トモスルコト能ハズトイフハ如何ニ考フルモ理解ニ苦シム所ナリ。現ニ前章ニ記述シタル英國石炭坑夫ノ二回ニ互ル大同盟罷業ノ如キ英國ノ國家、社會ニ對シテ莫大ナル損害ト深甚ナル脅威トヲ與ヘ乍ラ、國家、社會ハ遂ニ之ヲ如何共爲スコト能ハザリシハ、如何ニ考フルモ理解ニ苦シム次第ニシテ、斯ノ如キハ畢竟

産業組織ノ不完全ナル結果ト言ハザルヲ得ザルナリ。兎ニ角勞資二者間ノ爭議ガ或程度ヲ越ユルトキハ、國家、社會ニ對シテ莫大ノ損害ヲ及ボスコトハ現在ノ事實ナレバ、爭議ガ或程度ヲ越ユルトキハ、國家、社會ハ進ンデ之ニ關與スベキハ勿論、苟モ莫大ナル損害ヲ讓スベキ性質ノ爭議ニ在ツテハ、社會各階級共皆其渦中ニ投ジテ、之ガ圓滿ナル解決方法ヲ講ジ、直接ニ利害關係ナケレバトテ之ヲ對岸ノ火災視スルコトナク宜シク其責任ヲ共ニスベキモノナリ。否結局ハ如何ナル爭議ト雖モ、民衆多數ノ幸福ヲ基礎トナシ、一般社會ニ損害ヲ及ボサザルヤウ、之ガ根本的解決策ヲ講究セザルベカラザルナリ。

勞働爭議ヲ圓滿ニ解決スルコトノ困難ナル理由ハ果シテ何處ニ在リヤ。元來人類ハ共同生活即チ共同生存ヲ行フノ本能ヲ有シ

ナ、ガラ、人口ノ増加スルニ隨テ益々自己ノ貧慾心ヲ增長セシメ、唯自己ノ欲望ヲ満足セシムレバ足ルトナシテ他ヲ顧ミズ、多數ノ迷惑ト損害トヲ顧慮セズシテ少數者ノ我儘ト利慾トヲ押通サントスルコト、換言スレバ共同生存ノ原則ニ反シタル行動ヲ敢テスルニ至ルコト、是レ即チ其圓滿ナル解決ヲ困難ナラシムル主要ナル理由ナルベシ。是レ猶ホ國際聯盟ヲ圓滿ニ組織スルコト能ハズ又國際紛擾ヲ圓滿ニ解決スルコト能ハザルハ、強國ガ弱國ノ迷惑ト損害トヲ顧ズ又其存立ヲ無視シテ、只管自國ノ慾望ノミヲ満足セシメントシ、或ハ少數白色人ガ多數有色人ノ生存ヲ脅威シテ、唯ニ自己自身ノ權利ノミヲ主張スルニ原因スルト同一ナリ。去リ乍ラ國際間ニハ、正義人道ノ看板ハアルモ、事實ニ於テハ何等ノ德義モナク又制裁スベキ法律モナキコトナレバ、弱國強食ノ事實ハ

到底免ル、ヲ得ザルベシト雖モ、國家ニハ國家ノ法律アリ、社會ニハ社會ノ德義アルコト故、共同生存ノ原理ニ則リ、多數ノ意見ニ依ル多數ノ幸福ヲ基礎トシテ、之ガ解決ノ任ニ當レバ、樽俎折衝ノ間ニ圓滿ノ解決ヲ得ルコト蓋シ不可能事ニ非ザルベシ。若シ此事ニシテ不可能事ナリトセバ、同胞相喰ミ相害ヒテ、結局ハ我民族ノ發展ヲ阻害シ、他國ノ壓迫脅威ヲ甘受セザル可カラザルコトニ立至ルコト火ヲ賭ルヨリモ明ナリ。此點ヨリ考フレバ勞働問題ハ實ニ國家政治上ノ重要問題ニシテ同時ニ社會全般即チ民族休戚ノ分岐點ヲナスベキ一大問題ニシテ、決シテ勞働者及資本家ノミノ問題ニハ非ザルナリ。

由來我國民性ハ、長イモノニハ卷カレヨ、觸ラヌ神ニ崇リナシ等ノ謬ニモ示サレタルガ如ク、自ラ正義ナリト信ジタル道ニ向ツテ勇

25  
x 12  
50  
25 1  
300

300  
x 4  
1200

猛邁進スルノ觀念薄弱ナルガ如シ。一例ヲ示セバ、大正九年末頃ヨリ政治社會ニ唱ヘラレタル綱紀肅正問題ノ如キ、其間ニ挾マル政黨者流ノ權謀ハ兎モ角トシ、常識ヲ以テ判斷スルトキハ、殆ンド黑白明白ナル事實ナルニモ抱ラズ、政治家及文筆者流以外ノ一般人士ニ於テハ、其意見ヲ發表シタル者極メテ稀ナリ。曰ク、我等ハ仕事ガ違フ、我等ノ關スル所ニ非ズ、ナードーニカ成ルナラント。又曰ク、政黨ハ腐敗セリ、代議士ハ下劣ナリ、之ヲ如何センヤト。即チ唯自己ノミヲ高所ニ置キ、自己ノミガ賢ナリトナシ徒ニ引込思案ニ耽ル人多クシテ、他ト相扶ケ合ヒ、相導キ合ヒテ、以テ社會ヲ廓清セントスルノ意氣ナキモノノ如シ。殊ニ労働問題ノ如キハ所謂新思想ノ問題ナルヲ以テ一層此感ヲ深ウセズンバ非ザルナリ。然レ共今ヤ世界ノ大局ハ斯カル因循ナル引込思案ヲ吾人ニ許ス

ベキ時期ニ非ザルヲ以テ吾人ハ宜シクカノ日蓮聖人が權勢ニ屈セズ、刀杖ヲ恐レズシテ、只管自己ノ信念ニ向ツテ邁往セル大勇猛心ニ倣ヒテ、社會ノ廓清ヲ實行スルト共ニ、労働問題ノ圓滿ナル解決ヲ圖リ、以テ我産業ヲシテ益發達セシムルコトニ努力セザルベカラザルナリ。

大正十一年四月二十八日印刷  
大正十一年四月三十日發行

勞働問題根本解決策

正價金貳圓

著者兼  
行者兼

永井米藏  
市外戸塚町戸塚七八四

印刷者

篠田玉三  
東京市京橋區橋町一番地

印刷所

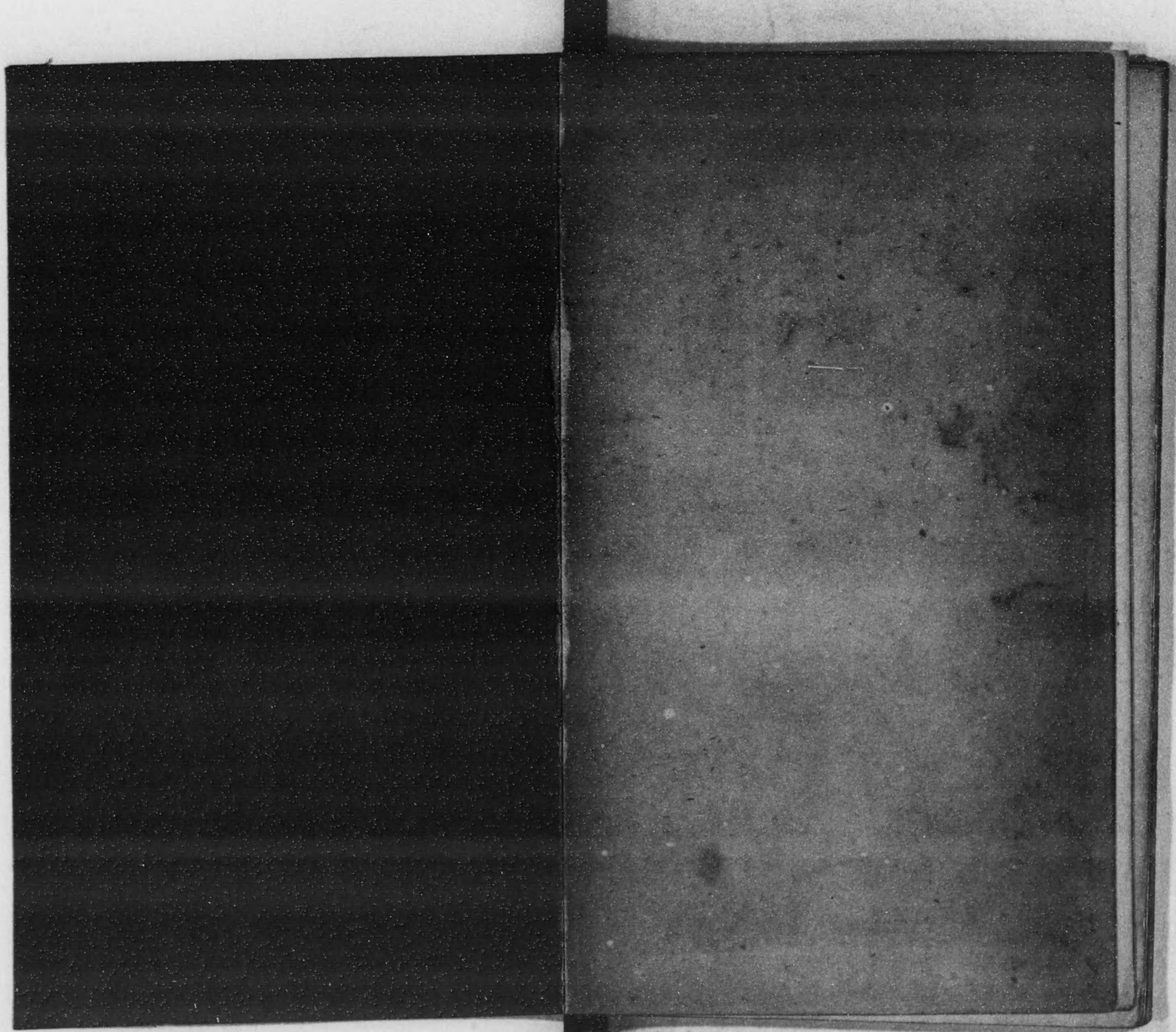
愛正舍  
東京市京橋區橋町一番地

不許  
複製

發行所

東京市神田區錦町一ノ十二  
電話東京三一四三七番  
電話神田二五三三番

自彊館書店



502  
83

終